



がんばろう！ 輝く柏崎 ～さらなる未来へ～

## テーマ2

「柏崎刈羽の自立支援協議会の  
立ち上げ経過と現状」について

# 協議会の設立経過

---

平成17年11月 障害者自立支援法成立

平成18年1月 障害者自立支援法施行に伴う連絡会議 設置



以降、18年12月まで月一度のペースで会議実施

平成19年1月

～3月 相談支援事業者、行政で協議会素案の取りまとめ作業

平成19年4月 柏崎刈羽地域障害者自立支援協議会 設置  
(柏崎市と刈羽村で共同設置)

平成19年7月9日 第1回柏崎刈羽地域障害者自立支援協議会 開催

# 連絡会議について

平成18年1月  
スタート

## 1. 会議設置の目的

- ・ 障害者自立支援法の勉強会（制度の周知、新体系移行...）
- ・ 3 障害の支援関係者間の顔合わせ
- ・ ケアマネジメントの普及（相談支援事業の周知と技術習得）

## 2. 参加メンバー

- ・ 居宅サービス事業者、知的入所施設、精神生活訓練施設、児童入所施設、福祉ホーム、グループホーム等（7事業所）
- ・ 地域療育等支援事業コーディネーター（1名）
- ・ 授産施設、福祉作業所（2ヶ所）
- ・ 医療機関相談室ワーカー（3ヶ所）
- ・ 行政（県振興局、柏崎市、刈羽村の障害福祉担当課）

新制度施行による不安の吐き出しと顔なじみの関係づくり

# 連絡会議の検討内容

—第1回協議会（19年7月）開催までのプロセス—

ステージ	時期	検討内容	ねらいや効果
準備期	18年 1～3月	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 法律を皆で学びあう</li><li>・ <b>各施設の現状報告</b></li></ul> →相談支援の必要性明確化	不安の吐き出し <b>顔なじみの関係作り</b>
始動期	4～6月	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 障害者自立支援体制に向けた「地域課題整理」</li><li>・ 優先課題の抽出</li></ul> →支援体制モデル案①提示	グループワークを取り入れ、 <b>仲間意識</b> の基礎作り
活動期	7～9月	<ul style="list-style-type: none"><li>・ チーム別ワーキング</li><li>・ 協議→活動→まとめ</li></ul>	固定グループで仲間意識の確立
完成期	10～12月	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 支援体制モデル案②提示</li><li>・ 案②の精度を高めるためグループ毎に協議</li><li>・ 支援体制モデルの確定</li></ul>	<b>仲間意識</b> の高まりをベースに濃密な議論展開
体制準備期	19年1～3月	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 組織の役割、目的を明確化</li><li>・ 評価方法について検討</li></ul>	1年間の検討結果を協議会としてまとめの作業
体制完成期	4～6月	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 協議会の概要を関係機関等に説明</li><li>・ ワーキング等の活動計画案の説明</li><li>・ 中越圏域との調整について協議</li></ul>	協議会の体制イメージを全関係者で共有する作業を丁寧に実施

# 協議会の目指すところ

(目指す姿、期待するもの)

「この仕組みを使ってドンドン新しい施策をつくり出していきたい」

「もはや行政のみのノウハウやサービス創出だけでは、限界感あり。財政状況等も考慮すると行政依存ではなく、民間も同じ目線で自ら取り組む時期に来ている」という認識あり。

では、そのために

- ① トップの協議会委員を事業所のトップ(理事長等)とし、現場で起こっている事、考えている事、新しい発想をまず理解してもらう
- ② 実際に協議会の舵取りは、現場で頑張っている代表からなる「サービス調整連絡会議」で行う
- ③ 特に①は19、20年度で効果的に行い、21年度移行は実践のため、スピード感を重視した仕組みに転換する
- ④ これらを実行するためのパートナーが「**相談支援事業者**」

# パートナーとしての相談支援事業者

(協議会の運営において“パートナー”として期待するもの)

## 1.多くの経験、体験から蓄積されたノウハウを地域に広める力

- ・個別支援会議への積極的な参加
- ・ケアマネジメント会の運営
- ・ワーキング活動でのリーダー

## 2.障害者に一番身近な立場として事態を伝える力

- ・サービス調整連絡会議、トップの自立支援協議会でのファシリテーター
- ・相談件数、傾向等の報告と分析

## 3.全体的な視点の中で、課題の優先順位付けを行える力

- ・サービス調整連絡会議、トップの自立支援協議会のテーマ選定

## 4.課題解決における客観的な視点を持つ力

- ・緊急性、将来への仕組み...どういった視点で課題に取り組むか

# 協議会の組織体系

※組織体制をまとめるに当たって留意した点

1. 連絡会議で積み上げた現場からの“声”を組織に反映
2. 柏崎刈羽地域内での問題、課題の解決力アップ
3. 平成19、20年度の2年間の活動に特化
4. 既存の活動との協調



トップの

# 自立支援協議会の歩み

(委員)

学識経験者、医療機関、相談支援事業者、障害福祉サービス事業者代表、  
障害当事者、ハローワーク、商工会議所、特支教代表 (12名)

(主な検討内容)

第1回 19年7月9日

・協議会の目的、組織の説明

※19.7.16 中越沖地震

第2回 19年11月19日

・中越沖地震の振り返り(支援活動報告)

※20.1.8サービス調整会議で激震が走る

第3回 20年3月3日

個別事例を中心とした議論に転換！！

・地域課題の共有「在宅生活における24時間介護対応」

第4回 20年7月14日

・「在宅生活における24時間介護対応」への具体的対応策の提案  
・地域課題の共有「障害者の移動の困難」

# 自立支援協議会の歩み

||

## 「サービス調整連絡会議」の歩み

(メンバー)

相談支援事業者3、障害福祉サービス事業者代表1、各ワーキング代表4、県振興局3、  
柏崎市刈羽村の担当11名 (21名)

(開催ペース、会場)

毎月第二火曜日午後1時30分～、会場も元気館の会議室を通年予約

20.1.8サービス調整連絡会議

「今やってることって、現実と全然関係ないよね...」

「1年前に話し合った課題って話をしたことないね」

「どうやったらサービス改善につながるか分からない」

今後の進め方の大きな転機に

<これまでの話題は...>

- ・組織の機能や役割のイメージ化
- ・会議ルール、報告様式の決定
- ・ワーキング活動の計画検討
- ・相談支援の報告等もなし

...会議の在り方論、組織のイメージ化  
のやり取りに終始

×個別事例から離れてしまった

# 20.1.8サービス調整連絡会議のホワイトボード1

## 1. 現実論も語る場

(先進地を冒険の手帳たよみどんで)

- 現実の認識が大切
- サービス改善につながる事例検討  
(各々のそれそれのイメージを出す)
- WGやサービス調整会議活動や問題点も知ることが
- これまでの活動で出た課題の協議も共有
  - 教育分野が福祉を意識する(かけ必要)
  - 自立支援とは何かを語る必要(次年度)
- 事前協議を深める (協議会をどう扱う場にするか  
現実感をもちながら)

## 2. 継続構造の生かし方

- 個別からの課題抽出 (ネット)  
(GH)  
・地域と考えるサービス改善 (如作居)  
・メンバーと語り合い → 意欲アップ  
・事例から協議会につなげる仕組みの構築
- サービス調整会議機能を元に戻す  
WG活動から協議会やサービスにどう  
つなげるのか 明確にし共有する  
努力必要 → 参加する意味達成感上がる
- 相談支援からの困り事の集積と協議  
(相談支援事業者中心に他職者も参加)  
→ サービス改善と協議会に結びつける

## 20.1.8サービス調整連絡会議のホワイトボード2

### 3. 協議会当日の工夫

- ・ 職場スタッフの参加の現実感を高める
- ・ 利用者の利用の時間帯は変えた
- ・ 定例スケジュールあると良い
- ・ 会場を元氣館 20. 駐車場利用の少ない時間帯 (夜間 20.)

### 今後について 協議会と連携関係

- ① サービス連絡会議を生かす(本)  
相談支援事業者の報告し協議(共有(日誌+PC))
- ② 教育と医療機関のつながり見直し強化
- ③ WGの負担を軽減する  
サービス連絡会議から出た課題も単体的に協議する  
現場の声をひきよめてサービス連絡会議・報告  
(各WGから出た課題の振り返りなど)  
→ ①の協議に希望人数を把握して法人に依頼
- ④ 今後について サービス連絡会議: WGリーダー  
に変更し協議する

# ここまでを振り返り...協議会運営の工夫

## 1. 個別事例を中心とした議題、テーマの設定

- ⇒ トップの協議会で定例議題にする
- ⇒ 進行役を相談支援事業者の輪番制へ

## 2. トップの協議会で法人トップに現実を分かっ てもらう

- ⇒ 各所属内でのスムーズな話題の広がりを
- ⇒ 仕事に反映させる

## 3. ワーキング⇔サービス調整会議⇔協議会の関係性を 事例により強固にする工夫

- ⇒ 事例が協議会の血液「事例が流れるイメージ」共有

## 4. 「事例」の意味を整理し、使い分ける

- ⇒ 地域課題としての「事例」と処遇検討を要する  
困難「事例」

## 5. 協議のプロセスを可視化し、参加者全員で共有する

- ⇒ トップの協議会は傍聴自由、広い会場で夜間開催に

## 6. 20年度は具体的な成果にこだわる年に

- ⇒ 具体的な対応策をトップの協議会に提案

## 7. 障害福祉分野を超えた広がりを意識

- ⇒ 地域資源の捉え方の再認識



第2回協議会の様子  
(19.11.19)

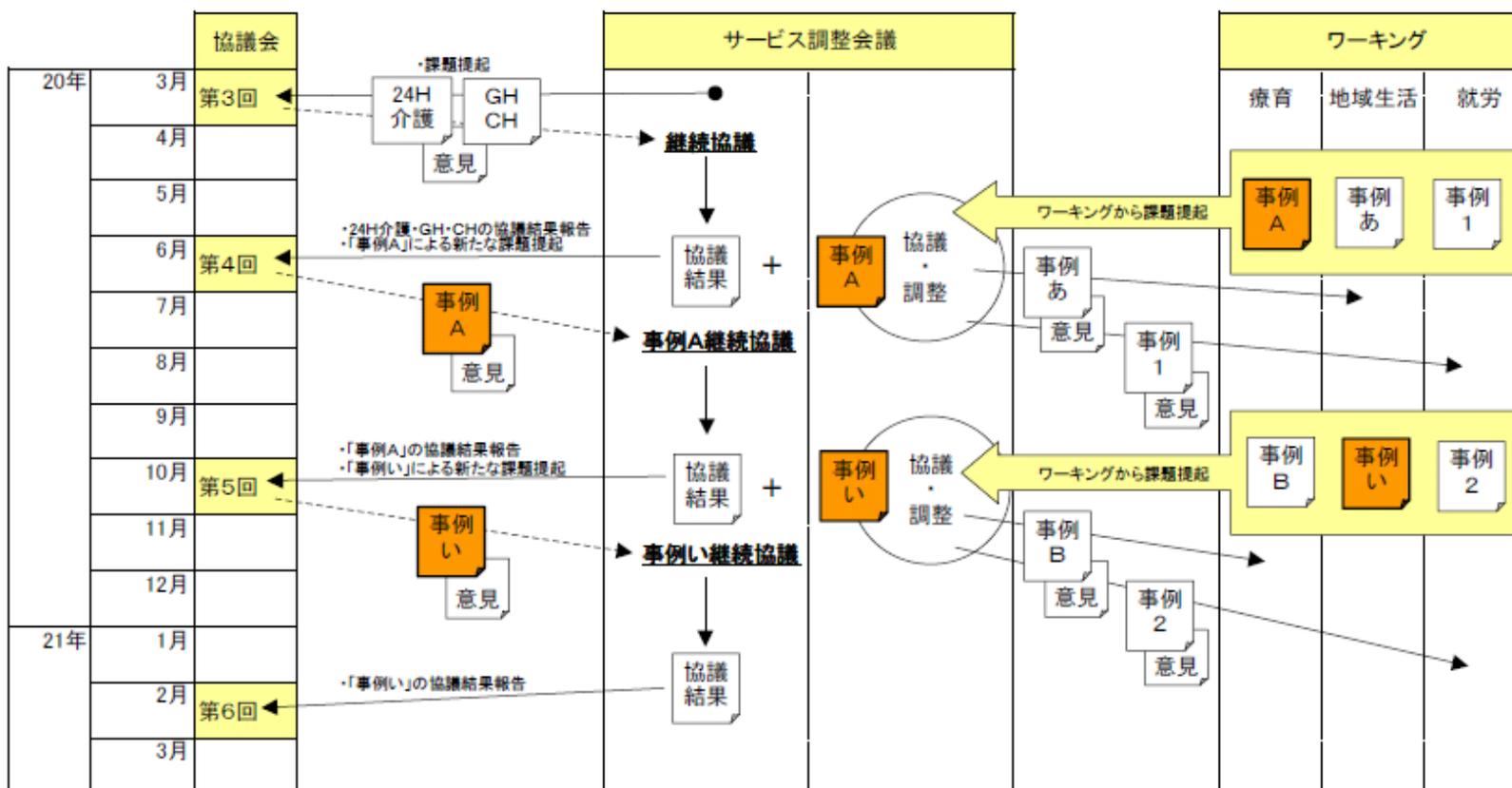


第4回協議会の様子  
(20.7.14)

# (参考) 事例の流れるイメージ

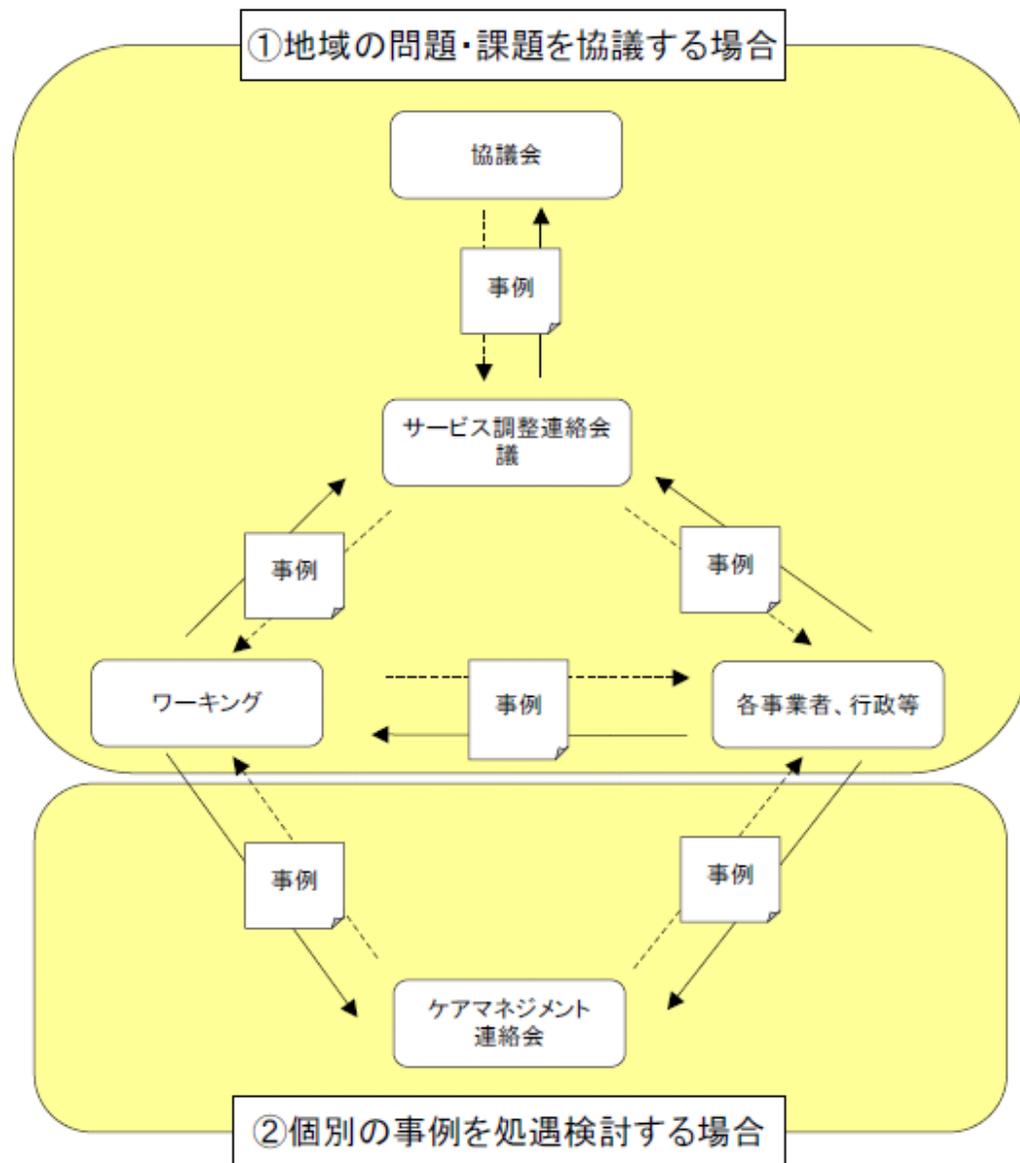
○事例が“流れる”イメージ2

## ①地域の問題・課題を協議する場合



参加者、ワーキングの発言がきちんと取り上げられる仕組み

# (参考) 事例の意味合いの整理と使い分け



会議で論点が  
ぶれないために

困難事例も相談支援  
事業者からなる  
ケアマネジメント連絡会  
で寄り添う